

単元名

『出勤！ 自分の命、ふるさと広南を守るんジャー！』

(自然を守ろうわたしたちの町)

挑戦問題 『災害が起こったときに、自分の命やふるさとを守るにはどうしたらよいのだろう。』

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 情報収集・判断 思考・表現 挑戦・探究 責任・使命 協力・協働 感謝・貢献

1 対象 第5学年1組 男子10名 女子8名 計18名

2 単元で目指す学びの姿

実際に西日本豪雨を体験したことを参考に、災害が起きたときにどう対応するか考えるとともに、災害への注意喚起や災害から身を守るための方法を実践、発表し、自分の命、そして他の人々の安全にも気配りができる姿。

<単元で児童と共有する学ぶ姿を見取る資質・能力のルーブリック>

資質・能力		評価	評価基準（評価規準A）	
生き方や故里に関する知識・技能		S	広南地区の災害や防災の現状について理解し、地域を守るための方策を考え伝えることで、実現するための方法を実践しようとするができる。	
		A	広南地区の災害や防災の現状について理解し、地域を守るための方策を考え伝えることができる。	
		B	広南地区の災害や防災の現状について理解することができる。	
		C	広南地区の災害や防災の現状について理解することができない。	
実社会における横断的・総合的な問題解決の能力	情報収集判断	S	ゲストティーチャーの話や呉市のハザードマップを参考にして、広南地区の危険な箇所を読み取ったり、アンケートから防災意識の現状を把握したりする中で、防災のために考えたことをもとに、自分の考えを広げ深めることができる。	
		A	ゲストティーチャーの話や呉市のハザードマップを参考にして、広南地区の危険な箇所を読み取ったり、アンケートから防災意識の現状を把握したりする中で、防災のために必要なことを選んで、考えることができる。	
		B	ゲストティーチャーの話や呉市のハザードマップを参考にして、広南地区の危険な箇所を読み取ったり、アンケートから防災意識の現状を把握したりすることができる。	
		C	ゲストティーチャーの話や呉市のハザードマップを参考にして、広南地区の危険な箇所を読み取ったり、アンケートから防災意識の現状を把握したりすることができない。	
	思考表現	S	災害から地域を守るために、自分ができていることを考え、相手に伝えたいことをはっきりと分かりやすく表現することができる。	
		A	災害から地域を守るために、自分ができていることを考え、相手に伝えたいことをはっきりと表現することができる。	
		B	災害から地域を守るために、自分ができていることを考え、相手に伝えたいことを表現することができる。	
		C	災害から地域を守るために、自分ができていることを考え、相手に伝えたいことを表現することができない。	
実社会における横断的・総合的な問題解決に取り組む態度	学びに向かう力・人間性	挑戦探究	S	広南地区の防災意識を高めることについて考えたことを実行することができる。
			A	広南地区の防災意識を高めることについて考えたことを実行しようとすることができる。
			B	広南地区の防災意識を高めることについて考えたことを実行したいと思うことができる。
			C	広南地区の防災意識を高めることについて考えたことを実行しようと思うことができない。
	責任使命	S	広南地区をよりよい地域にしていこうという意志をもち、将来にわたり、地域を守っていこうとすることができる。	
		A	広南地区をよりよい地域にしていこうという意志をもち、地域を守っていこうとすることができる。	
		B	広南地区をよりよい地域にしていこうという意志をもつことができる。	
		C	広南地区をよりよい地域にしていこうという意志をもつことができない。	

実社会における横断的・総合的な問題解決に取り組む態度	学びに向かう力・人間性	協力協働	S	グループで協力し助け合うことで、課題を解決しようとし、友達に対して解決のための提案をすることができる。
			A	グループで協力し助け合うことで、課題を解決しようとしている。
			B	グループで協力し助け合おうとしている。
			C	グループで協力し助け合うことができない。
	感謝貢献	S	災害から身を守るために働いている人に感謝し、これから地域のために役立とうと考え、自分のできることを探すことができる。	
		A	災害から身を守るために働いている人に感謝し、これから地域のために役立とうと考え、自分のできることを探そうとしている。	
		B	災害から身を守るために働いている人に感謝し、これから地域のために役立とうと考えている。	
		C	災害から身を守るために働いている人に感謝し、これから地域のために役立とうと考えることができない。	

【評価方法】

児童には、上記の資質・能力のルーブリック（AとS基準）を適時示し、意欲を喚起させ、単元の最後の自己評価に教師の評価を加える。（授業観察，ワークシート）

3 単元設定の理由

本学級の児童は、平成30年7月に西日本豪雨を体験した。学校が何日も休校になったり、一週間ほど水の出ない生活を余儀なくされたりした。また、地域の中では、今もなお、土砂災害の爪痕が残っている場所がいくつかある。断水の際に、水が出ないため、自衛隊のお風呂の支援でお世話になったり、給水活動に参加をしたりした児童もたくさんいることが分かった。

しかし、そのような経験をしたにも関わらず、「もし、同じような状況になったら」ということを考えている児童は少ないようで、避難するための準備をしたり、家庭で災害について話をする機会を十分にとったりすることはできていない。また、授業前にアンケートをとった結果、「思考・表現」について「自分で考えて行動することができている。」と感じている児童が94.4%であった。しかし、客観的に見ると、他教科においても、自分の考えを明確にしたり相手に率先して伝えたりすることを苦手とする児童が多く、「思考・表現」する力は十分身に付いているとはいえない。さらに、「情報収集・判断」できていると感じている児童は72.2%であり、他の資質・能力と比べて低い。普段の調べ学習等の様子から、必要な情報を自分で集めたり選択したりしたあとに、それらを適切に活かす力も不十分であると考えられる。

そこで本単元は、災害や防災について理解し、それを自分の地域のこととしてとらえ、自分たちにできることを考え、実践し、発信、そして、自分の命や他の人々の安全にも気配りできる姿勢を育てることを目標に設定した。そのための、情報収集の方法や防災のための方策を考える。

本単元では、挑戦問題「災害が起こったときに、自分の命やふるさとを守るためにはどうしたらよいのだろう。」を設定することで、児童の主体的に学ぶ意欲を高めるとともに、学習したことをもとに、再び被害が出ないための対策や防災についての広南地区の課題を発信する力を付けていきたい。発信の場は、ふれあい参観日と設定することで、相手意識をもち、どのように発信していくか考えられるように指導していきたい。そのために、防災リーダーの方にゲストティーチャーとして来ていただき、災害を経験して感じたことや、その後の取組などを話していただいたり、出前授業を受け、土砂災害が起こる仕組みについて実験したりすることで、学びを深めていきたい。

また、総合的な学習の時間以外でも、算数科のグラフを読み取る力やグラフをかく力を学ぶだけでなく、家庭科でご飯の炊き方を学習したり、理科で天気の変化に気付く力を身に付けたりするなど、避難時に対応できそうなことなどを関連付けて学んでいく。

(3) 貫きカリキュラム

事例3 教科横断・学校間接続型 （防災教育 小1～中3）

平成30年7月に起こった西日本豪雨災害では、地域全体が孤立するなど、広南中学校区も被災地となった。小・中学校は避難所や給水所となり、災害時の拠点となることを児童生徒は理解するきっかけとなった。今後、豪雨災害や南海トラフ地震などの影響を受けることが想定される本中学校区では自然災害についての正しい知識や防災、減災のための実践力を身に付けることが、喫緊の課題である。そこで、防災、減災というテーマについて小中9年間を通して探究していくカリキュラムをマネジメントした。

挑

地域の
教材活用

行事（全学年）防災・減災に向けて、自分たちに何ができるか、
地域とともに提言しよう！（7.9広南防災の日）

準

理科（中3）地域の自然災害
国語（中3）いつものように新聞が届いた
—メディアと東日本災害

地域の
教材活用

全校 避難訓練
行事 地域合同防災訓練で
学んだことを生かそう
1 学期 出水期前土砂災害
2 学期 南海トラフ巨大地震
3 学期 火災

地域の
教材活用

総合（中3）避難所運営について
広南避難プログラムを確認する

英語（中2）避難訓練
理科（中2）自然の恵みと気象災害
理科（中2）日本の気象
理科（中2）天気の変化
社会（中2）環境問題、環境保全に向き
合う人々の暮らし

技術家庭科（中3）情報収集 ラジオの製作

保健（中2）応急手当

保健（中2）自然災害による傷害の防止

保健（中2）自然災害による危険

保健（中2）飲料水の衛生的管理

道徳（中2）行動する建築家 坂茂

道徳（中2）避難所にて

総合（中2）GT（専門家）による防災学習

技術家庭科（中1）災害時の住まいと暮らし

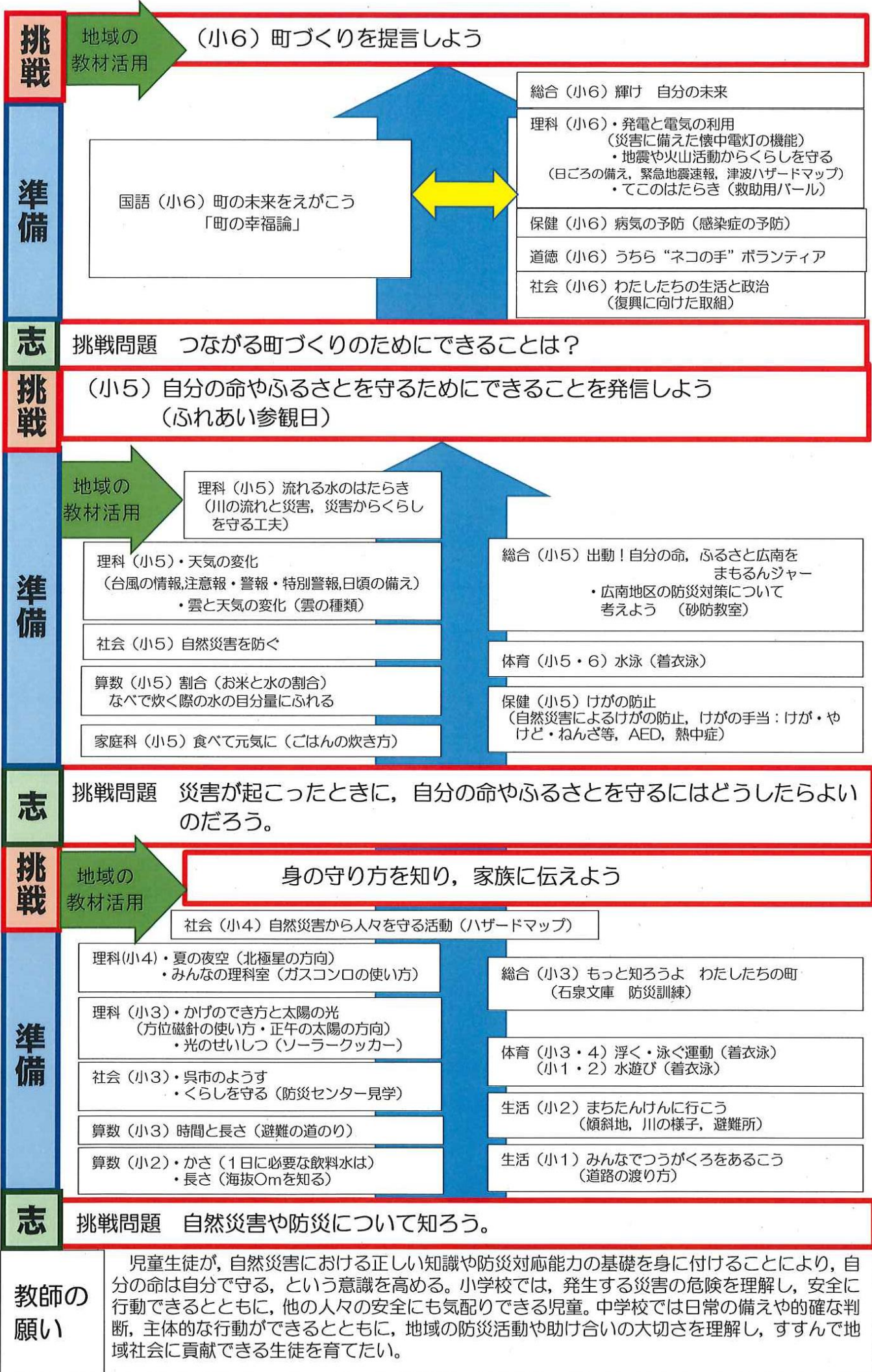
道徳（中1）震災を乗り越えて
—復活した郷土芸能

理科（中1）自然の恵みと地震災害
理科（中1）地震の伝わり方と地震の
起こる仕組み
社会（中1）自然災害と防災への取り
組み
社会（中1）世界から見た日本の自然の
すがた

総合（中1）防災劇鑑賞
防災ジュニアリーダーとしての志を持つ

志

挑戦問題 地域の自然災害による被害を減らすために、中学生の自分たち
には、何ができるだろうか。



5 本単元の指導計画（全25時間）

<p style="text-align: center;">学習活動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> 弔辞は、職員室の金庫に収めてある。 </div>	<p style="text-align: center;">時数</p>	<p>・指導上の留意点 ★評価規準（評価方法） （○は「指導に生かすための評価」、 ●は「記録するための評価」）</p>
<p>課題の設定（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年の西日本豪雨について想起させ、そのときの様子について話し合う。 昔災害が起こった際の弔辞を読み聞かせる。 <p>「災害が起きた際、被害を減らすために何ができるか、自分の命を自分で守るためにはどうすればよいか考えよう。」</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>挑戦問題 「災害が起こったときに、自分の命やふるさとを守るにはどうしたらよいのだろう。」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 広南地区の自然について考える。 広南地区は、海や山に囲まれており、自然に恵まれている地域であることに気付く。 一方、山の中腹は土砂災害などが起こる場所が多いことを確認する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ルブリックを提示し、本単元で身に付ける資質・能力について確かめるようにする。 <p>★【挑戦・探究】</p> <p>○挑戦問題を把握し、ふるさと広南のために、自分ができることはやってみようと、進んで挑戦しようとしている。（ワークシート）</p> <p>★【知識・技能】</p> <p>○広南地区の災害や防災の現状について理解することができる。（ワークシート）</p>
<p>情報収集（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> 西日本豪雨を経験して感じたこと、その後の防災についてアンケートをとる。（対象：5年生の保護者） 	3	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人（保護者）が、災害を経験して、その後の生活や考えにどのような変化が表れているか、または、何も変化がないかを調べ、今後の授業の参考とする。 アンケートの項目や把握したいことを、グループで考えさせ、アンケートを作成させる。 <p>★【協力・協働】</p> <p>○グループで考えてアンケートを作成し、災害を経験した後の地域の方の防災意識を把握しようとする事ができる。（行動観察・アンケート用紙）</p>
<p>整理分析（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果を整理・分析し、地域の方が防災意識についてどのような思いをもっているのかを明らかにする。 アンケート結果を項目ごとにグラフで整理し、分析する。 	2	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果から、地域の防災に対する意識を分析し、グラフにまとめさせる。 <p>★【情報収集・判断】</p> <p>○アンケート結果をもとに、地域の防災意識について整理・分析することができる。（グラフ・ワークシート）</p>
<p>課題の設定（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果分析をもとに、防災意識を高めていくためにはどうすればよいか、課題を設定する。 	1	<p>★【挑戦・探究】</p> <p>○防災意識を高めていくために、何をしていけばよいかを考え、進んで調べていこうとしている。（ワークシート）</p>

<p>情報収集（10）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広南地区の現状について知る。 広南地域のハザードマップから、広南地区は土砂災害や洪水災害・津波災害に注意しなければならない地域であることを理解する。 ・ ゲストティーチャーの話を聞き、過去の災害や現状について知る。 過去の惨劇や災害が起こる原因について理解する。 ・ 防災のための手立てや町の防災に関する情報などをインターネットや図書館等を利用し、収集する。 ・ 出前授業に参加し、土砂災害が起こる仕組みを実験で学んだり、自分たちでハザードマップ作りをしたりすることで、災害について理解を深める。 	<p>4 1 3 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 呉市の防災ハザードマップをもとに、広南地区の現状に気付かせるようにする。 ★【情報収集・判断】 ○ゲストティーチャーの話を聞いたり、呉地区防災マップを参考にしたりして、広南地区の危険な箇所を読み取り、どうしたらよいか考えることができる。（ワークシート） ★【感謝・貢献】 ●地域の方が、安全に気を付けてくれていることに感謝することができる。（ワークシート） ・ 防災について各地域の取り組みについて調べさせる。
<p>まとめ・創造・表現（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整理・分析したことをどのように伝えて、災害から身を守るための方法や防災に関心をもってもらうための方策を考える。 誰にどのような方法で伝えるか、相手や目的に応じた効果的な方法を考える。 	<p>6 (本時1/6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★【責任・使命】 ○広南地区に住んでいる人たちの防災意識を高めたいという意志をもち、地域の一員としてふるさとを守っていかうとすることができる。（ワークシート） ★【思考・表現】 ○学んだことをもとに、自分ができていることを考え、相手に伝えたいことをはっきりと表現することができる。（ワークシート） ★【感謝・貢献】 ○広南地区の人たちの防災意識を高めるために、自分ができていることを探すことができる。（行動観察・ワークシート）
<p>実行・振り返り（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西日本豪雨の経験を糧に、防災意識をさらに高めるために、ふれあい参観日において、保護者や地域の方に発信する。 <p>※ふれあい参観日での発表の様子をビデオで撮影し、4年生に見せることで、縦のつながりを意識させる。</p>	<p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★【挑戦・探究】 ○防災意識を高めるために、調べたり考えたりしたことを進んで発信しようとするすることができる。（行動観察・ワークシート）

6 本時の学習（18時間目／全25時間）

（1）本時の目標

学んできたことをもとに、広南地区を災害から守るための方法や防災に関心をもってもらうためにはどうすればよいか考えることができる。

(2) 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点 配慮を要する児童への支援 (◆) 発問 (○) 予想される児童の反応 (□□□□)	評価規準 ★資質・能力 (評価方法)
1 課題意識をもつ。	<div data-bbox="429 353 1185 461" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 挑戦問題 「災害が起こったときに、自分の命やふるさとを守るにはどうしたらよいのだろう。」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・挑戦問題について振り返り、アンケート結果や分析結果、自分で調べたことをもとに、考えさせるようにする。 	
2 本時のめあてを確認する。	<div data-bbox="387 701 1273 790" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて 「防災の大切さを伝えるには、どうしたらいいのだろう。」 </div>	
3 アンケート結果や分析をもとに、防災に関心をもってもらうために、自分たちを含め、保護者や地域の方に何を発信すればよいか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習から、保護者や地域の防災リーダーの方に防災に関心をもってもらうにはどうしたらよいか考えましょう。 ・グループで話し合いをする。 ・どんなことを発信したら関心をもってもらえるかを考える。 <div data-bbox="507 1066 1114 1473" style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・災害を経験しても、防災グッズを準備している人が少ないので、まずはできることからするように伝えたい。 ・警戒レベルでのとるべき行動について、知らない方が多いので、知らせるべきだと思う。 ・現状を地域やほかの学年に伝えたいと思う。 ・土砂災害が起こる仕組みを実際に見せることで、危機感をもたせるといいと思う。 </div>	
4 全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ◆グループ内の意見を短冊に記入させる。 ○各グループで話し合ったことを理由と一緒に発表してください。 ・それぞれのグループで出た意見を、全体の場で交流する。 	★思考・表現 ルーブリック (ワークシート)
5 防災リーダーの方にゲストティーチャーとして来ていただき、お話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の防災リーダーの方の様子や災害後に地域で行った取組も踏まえ、児童の話し合った内容が、防災への関心を高めることとして有効かどうか、話をしていただく。 ○みんなが話し合ったことが、地域の方にどれくらい伝わるのか、果たして有効なのか、ゲストティーチャーから話をしていただきましょう。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> S 災害から地域を守るために、自分ができていることを考え、相手に伝えたいことをはっきりと分かりやすく表現することができる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> A 災害から地域を守るために、自分ができていることを考え、相手に伝えたいことをはっきり </div>

<p>6 本時の振り返りを する。</p>	<ul style="list-style-type: none">・防災リーダーとの連携をしっかりとしておく。 (何を話してもらいたいのかを伝える。)・次時に学習することや新たな課題について確認する。	<p>と表現することができる。</p> <p>B 災害から地域を守るために、自分ができることを考え、相手に伝えたいことを表現することができる。</p> <p>C 災害から地域を守るために、自分ができることを考え、相手に伝えたいことを表現することができない。</p>
---------------------------	--	--

7 育成を目指す資質・能力に係る児童の変容

本単元では、7つの資質・能力の育成を目指して授業を行った。その結果、特に変容の見られたもの、課題のあったものを挙げる。その課題を解決し、次年度へつなげるために、指導案の改善を行った。

<成果>

○ 知識・技能

ハザードマップを使って、広南地域の現状をグループで話し合った際、「ぼくの家は、危険区域に入っている。どうやって逃げたらいいのだろう。」などと、自然と避難方法等を考えようとする姿が見られた。また、普段安全だと思って通っていた場所が危険な場所だと気付くことができた児童もいた。また、授業後にアンケートをとった結果、「知識・技能」が身に付いたと感じる児童が100%になり、児童自身も力が付いたと自覚していることが分かった。

○ 情報収集・判断

自分たちで、インターネットを使って災害について調べたり、出前授業で学んだりしたことを新聞にまとめた。その際、自分が伝えたいことを明確にしてまとめることのできた児童がたくさんいた。また、災害に対するいろいろな情報を得たことから、「すぐ避難できるように、家に帰ったら準備をしたい。」「災害のとき、真っ直ぐに逃げるのではなく、垂直に逃げるといいことが分かったので、もし災害が起きたら実践したい。」「家に帰ったら、調べたことを家族にも話して、もしものときの準備をしたい。」などと、次につなげようとする姿勢が見られた。さらに、「情報収集・判断」できていると感じている児童が、授業前の72.2%から88.8%に上がったことから、授業の成果が見られる。

また、「情報収集・判断」の根本的な力は、本単元で終わらせるのではなく、他の総合的な学習の時間や社会科等でも、繰り返し力が発揮できるように指導を続けていく。

<課題>

○ 知識・技能

広南地区の現状について理解することはできたが、自分自身の安全を考えることのみとなってしまう、他の人々の安全にも心配りができるような方策を考えさせるところまでには至らなかった。

○ 思考・表現

本年度行った授業においては、アンケートを実施するなどして課題を分析したり、児童が主体となって課題を設定し、防災活動について考えたりすることができなかつた。その反省を活かし、改善した指導案では、5年生の保護者からアンケートをとり、防災への関心について調べるところからスタートし、児童が主体となって授業を進めていけようにしたい。

地域の防災リーダーから学ぶ児童



児童が作成した防災新聞

